



富士岡の本多澄江さんのお宅からは、昭和二十九年に買ったという「猫ごたつ」を、市立博物館へ寄贈していただきました。

## 猫ごたつ



### 手探りのサッカー指導

「ジャトコ・サッカーチーム」



△養護施設の子供たちと楽しみながら

私たちサッカーチームは、練習・試合の合間を見て、これまでにも地元高校生チームを指導したことがあります。しかし、ボランティアとして本格的な技術指導講習会を開催したのは、県養護施設協議会とのおつき合いが始まった昨年の秋口からで、実績もまだ2回に過ぎません。

1回目は昨年9月、県内養護施設の指導員や保母さんを対象に、2回目は11月で、県東部地区の5つの養護施設の児童60人を対象にしたものでした。

「楽しみながら学ぼう」をスローガンに講習を始めたものの、子供たちの指導は、監督を初め選手全員が初体験。何もかも手探りでしたが、アップ、パス、ドリブルなど練習メニューが進むにつれ、お互いすっかり打ち解けて、最後には、別れを惜しむシーンもありました。

「教えることで自らも学ぶ」…私たち自身大いに勉強させていただき、今後とも定期的に開催して行きたいと思います。  
問い合わせ ジャトコ株式会社サッカーチーム事務局(安全厚生課内) ☎53-9605

二〇日号に連載中の「いきいきグループ」、今回初めて企業のグループに登場していただきました。編集室はこれを契機に、企業・事業所のクラブ活動を紹介したいと考えています。活動内容は、ボランティアに限りません。電話や手紙による申込みをお待ちしております。

こちら編集室

## 個性派の道具たち

⑧

寒い夜の一家団らんは、なんといっても、こたつ。

おじいちゃんもおばあちゃんも子供たちも、みんなそろってこたつに当たれば、家族のぬくもりが伝わります。

ミカンを食べたり、かるたをしたり、昔話を聞いたり、こたつを囲んでそんな楽しいお正月を過ごしたお宅も、多かったのではないでしょうか。

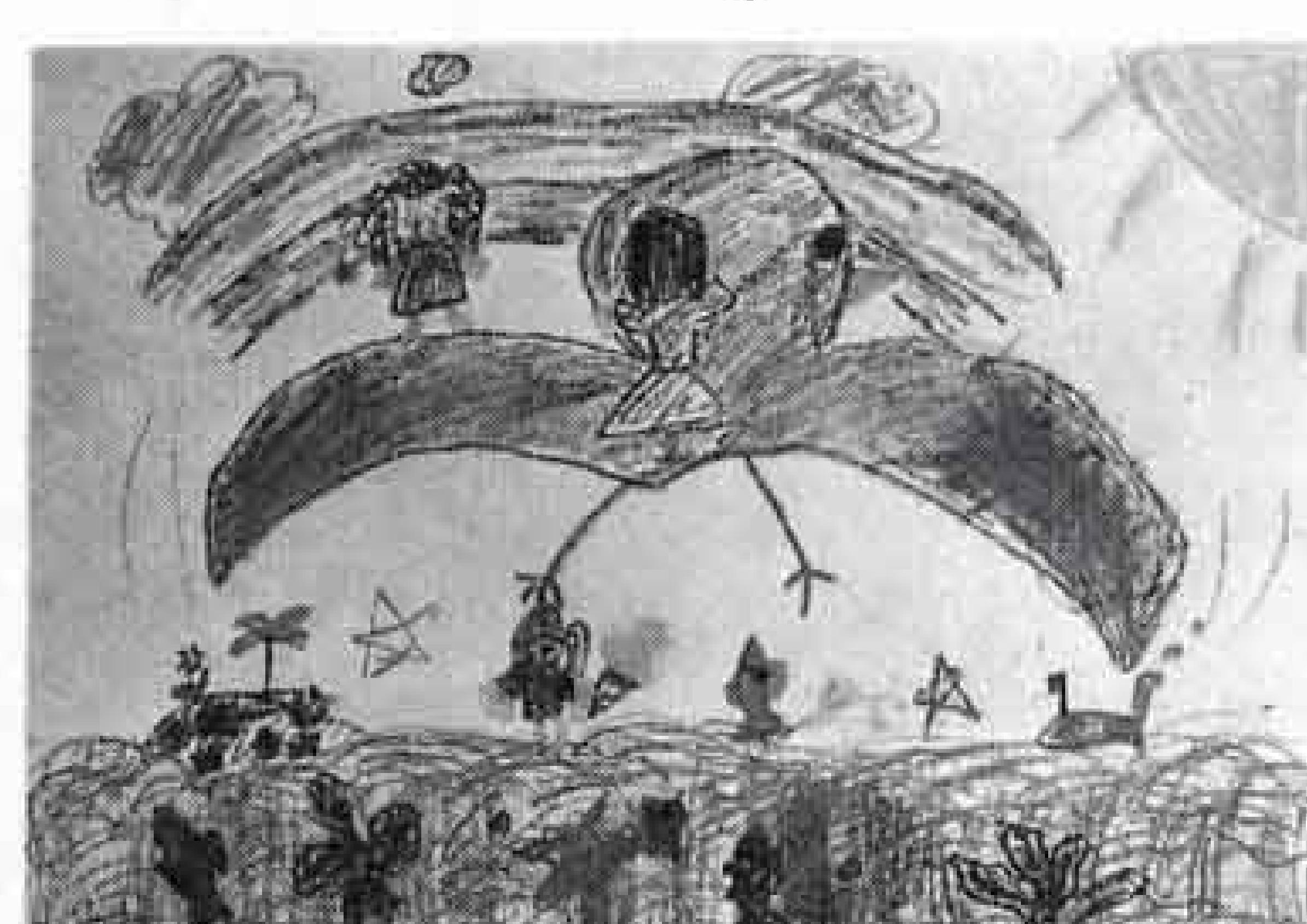


△小さな猫ごたつと澄江さん

猫ごたつは、電気で暖をとるのではなく、中に、まきの燃え残りの「おき」を入れます。このおきの入れ物が、ちょうど猫が背を丸めているような形なので、こう呼ばれているようです。

やぐらは、三十四センチメートル四方で、ヒノキでつくられています。小さなこたつですから、持ち運びには便利です。澄江さんがお嫁に来たとき、家族は十人。長男だつたご主人の兄弟は、男ばかり七人。一番下の子供は、まだ六歳でした。猫ごたつは、もっぱら子供たちの専用。学校から帰ると、杉の葉っぱを燃やして、消し炭に火をおこします。母家にもこたつはあつたのですが、子供たちはいんきよ部屋で、猫ごたつに当たりました。

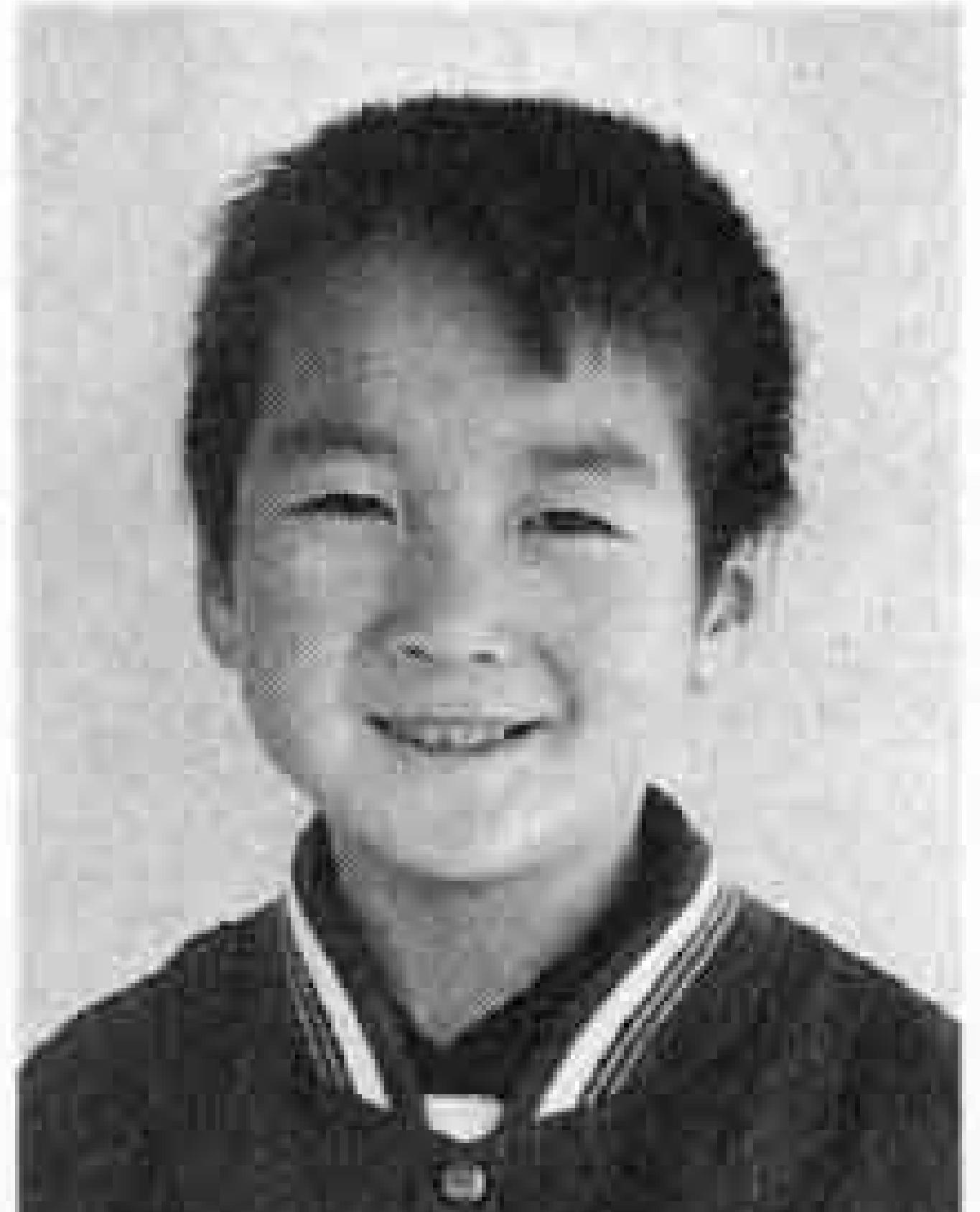
岩松北小の一年生は、どんなものにのってみたいか、ゆめを話し合いました。  
自分がのつてみたい、「とり」と「きょうりゅう」の絵です。



たちやまひとみ



大きなとりのせなかにのつて、空をとんだら気持ちがいいだろうな。そして、にじの上にいきたかったいよ。みんなのしまで、バーベキューをしたら、大きいだらうな。



しみずいさむ